

商店街名：大曽根商店街連合会（名古屋市）

キャッチコピー

まちの人がつどい、つながり、新たな企てが
生まれるような商店街

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

ターミナル機能を有する大曽根駅近くに立地し、近隣にはファミリー・単身世帯向けのマンション開発が盛んで人口は増加している。
（周辺学区の20～40代比率45.5%、市全体38.5%）今後もファミリー層の増加が見込まれる一方で、近隣からの商店街利用は少なく、高齢化による後継者問題等から商店街加盟店舗数は減少傾向にあり、商店街の持続性に懸念がある。



◇商店街の姿

ゆとりのある路上空間における社会実験（憩いの場・チャレンジしやすい場創出）や「つどいタウン」を中心としたプロジェクトを推進し、従来の買い物場としての商店街だけでなく、学びで終わらない次のステップへとつながる社会実験を重ね、持続可能なまちの魅力に共感し応援したいと思える人々とともに日常の賑わいを育む商店街を目指す。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

商店街周辺のファミリー層の人口比率は維持されるものの、商店街の事業者の高齢化はさらに進み、商店街主体のイベントが重労働になる。組合員間のコミュニティが希薄化し、組合からの脱会や廃業が進むなど、商店街組織の維持が困難になる。また商店街の空き店舗が増え、マンション等に変わる可能性がある。



◇商店街の姿

空き店舗におけるリノベーション事例を増やし、商店街の中で集える場所が増えるなかで日常的な賑わいが生まれ、新規出店などのチャレンジが生まれ続ける商店街になる。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

- 「つどいタウン」を中心とした地域や商店街へ人を呼び込むようなプロジェクトに加え、ゆとりのある路上空間における社会実験を進め、まちの人が集える場所・チャレンジしやすい環境づくりを進めていく。
- プロジェクトや社会実験と並行して近隣住民の商店街に対するニーズ調査・地域や商店街の歴史について考える講演会、将来ビジョン中間案に基づくワークショップを実施し、求められる商店街の姿をアップグレードさせていく。
- 商店街や周辺空き店舗の状況やオーナーの意向等を調査し、出店希望者とのマッチングをはかれるようにしていく。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計7名

(2) 地域プラットフォーム

名称：大曽根まちそだて会議

目的：「大曽根地域が住み続けたくなる街」であり続けるため、商店街の再生を核に地域の人々の関係性を築きながら、持続的なまちそだて活動を行っていくこと。

参画：商店主、市町村、地域住民、学校、大型店

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

地域に買い回りができる場が少なく、買い物は大型スーパーを利用してしまいがちである。空き店舗が多い商店街である為、一店舗でも地域の方のお食事や様々な憩いや集いの場を提供し来街者が増えることで、安心安全な商店街として活気が戻ることを期待されている。近年まちそだて会議に参画する人々が近隣大学の学生など多様化する中で、自己実現ができる・新たな挑戦ができる商店街としてのニーズが高まっている。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

商店街の将来ビジョン実現に向け、ゆとりある路上空間を活用した社会実験や「つどいタウン」を中心とした定期的なイベントやマルシェを実施し、地域住民が集い・挑戦できる環境を整える。あわせてニーズ調査やワークショップを実施し、地域の声を反映した商店街像を更新する。